

平成20年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立七尾養護学校珠洲分校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 地域との結びつきをめざした緊急時対応マニュアルの作成と運用	① 緊急時対応マニュアルの見直しと整備を行い、搜索訓練を実施する。また学校周辺地区向けのマニュアルも作成し、配布と緊急時の搜索活動の依頼を行う。	新たな緊急時対応マニュアルに基づいた搜索訓練を A：3回以上実施した。 B：2回実施した。 C：1回実施した。 D：実施できなかった。	搜索訓練を3回実施した。 評価 A	・今年度は搜索訓練を3回行ったことは成果として挙げられるが、地域の方に依頼する対応マニュアル作成を行うところまでいかなかったことが大きな課題として残った。また搜索箇所を大きく図解した地図の掲示も大切だと思われる。 ・次年度は今年度の課題と反省を踏まえ、早急に地域向けのマニュアル作成に取りかかりたい。
学校関係者評価委員会の評価		・過去に他校でもいくつか事故が起きていることから、緊急時対応マニュアルが整備され搜索訓練が実施されていることは評価できる。 ・珠洲分校は地域との結びつきができていますが、地域にはお年寄りが多いこともあるので、みさき小学校、三崎中学校、三崎公民館などにも連絡網があれば協力できる。 ・搜索班はA～C班の3つに分かれているが、各班に地元の地理に詳しい教員を必ず一人は配置するようにしたら良い。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・来年度は、近隣地域とみさき小学校、三崎中学校、三崎公民館との連携を盛り込んだマニュアルを作成し、それを元にした搜索活動も行うようにする。		
2 地域の資源を活用した計画的な教育活動の展開	① 高等部作業学習や総合的な学習の時間などで、地域をフィールドとした学習を展開し、地域の中で本校に対する理解者を増やせるような指導計画や指導形態、支援方法を探求する。	地域における学習活動に関して、地域の方々は A：十分満足できた。 B：おおむね満足できた。 C：あまり満足できなかった。 D：ほとんど満足できなかった。	アンケート調査結果は以下のとおり A：4（100%） B：0（0%） C：0（0%） D：0（0%） A+B＝100% 評価 A	・高等部作業学習では、珠洲焼陶芸家、山野草講師、貝殻細工講師、果樹園剪定講師など各分野の専門家を招き、地域の特色を生かした作業学習を展開することができた。 ・次年度も地域からの多くの理解者、協力者を得ながら特色ある授業づくり、学校づくりを目指したい。 ・総合的な学習の時間では、魚釣りや塩作り体験、読み聞かせ会、人形劇、よさこいソーランの発表など、他の施設（老人ホーム長寿園、こすもす、松波保育所、輪島分校）との交流を行うことができた。毎年、珠洲市、能登町の施設への活動範囲を広げてきたが、今後も多方面と実りある交流ができるよう継続したい。
学校関係者評価委員会の評価		・地域に出かける体験型学習は、生徒にとっても地域の理解者を得るということでもとても意味のある活動である。三崎公民館主催の事業との双方向の連携も可能ではないだろうか。その際には社会福祉協議会や三崎中学校のマイクロバスなどの利用も可能ではないか。 ・本地区では、本小学校があった時は勤労生産学習として休耕田を利用し、餅米を作ってもちつき大会などを実施していたこともあった。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・次年度も、これまでの活動の他にも、三崎地区では、みさき小学校、三崎中学校、三崎公民館、里山里海自然学校との連携などとも積極的に関わりを持ちながら、充実した教育活動を展開していく。		

3 特別支援学校としての教育相談事業の充実と精選	① 発達検査等も取り入れたアセスメントを実施し、その結果を活かして教育相談室での相談・支援体制を充実させる。	教育相談室での相談内容に満足する保護者の割合が A：9割以上である。 B：8割以上である。 C：6割以上である。 D：6割未満である。	アンケート調査結果（後期相談分）は以下のとおり A：4（57%） B：3（43%） C：0（0%） D：0（0%） A+B=100% 評価 A	・1月までに14ケースについて来校相談（47回）を実施した。 ・定期的に相談室での教育相談を希望するケースが増えてきたので、アセスメントを実施した。その結果に基づき、保育所や学校、医療機関、行政機関等、本人を支える各機関と連携支援会議を行い、支援計画作成にかかわることができたケースもあった。 ・引き続きアセスメントの結果を連携支援会議や支援計画の作成に反映させ、具体的な支援に結びつくようにすることが課題である。
	② 医療、福祉、保育所、小・中・高等学校との連携を図り、専門相談活動の充実を図る。	専門相談員の相談内容に満足する相談者の割合が A：9割以上である。 B：8割以上である。 C：6割以上である。 D：6割未満である。	アンケート調査（後期相談分）の結果は以下のとおり A：7（58%） B：5（42%） C：0（0%） D：0（0%） A+B=100% 評価 A	・1月までに32校（保育所、小学校、中学校、高等学校）への専門相談（40回）と巡回相談（15回）を行った。主な内容は、特別支援教育についての研修会講師、校内支援会議での助言、担任などへの助言である。 ・後期はこれに加え、就学や進学に伴う連携支援会議や引き継ぎ資料作成の支援を行った。 ・中学校や高等学校からの相談依頼が増えており、ニーズに対応できるよう担当する職員の研修が必要である。
	③ 関係機関と連携して会議や研修会を開催し、珠洲市・能登町における相談・支援体制を充実させる。	関係機関との連携会議が A：4回実施できた。 B：3回実施できた。 C：2回実施できた。 D：1回実施できた。	関係機関との連携会議を2回実施した。 評価 C	・次の2回を実施した。第1回は小中学校職員、医療機関、行政機関、教育相談室による連携支援会議で、9名の参加者があった。第2回は保育所職員、医療機関、行政機関、教育相談室による連携支援会議で20名の参加があった。 ・第3回は医療機関、行政機関、教育相談室による連携支援会議を行う予定であったが、打ち合わせの段階で保健センターが主幹することになったため、珠洲分校主幹の行事として実施できなかった。 ・教育相談利用者や校内児童生徒にかかる個別の連携支援会議については、5名について7回実施した。
学校関係者評価委員会の評価		・珠洲分校は、特別支援教育に関して珠洲市、能登町の地域の拠点として期待されていると同時にセンターとしての役割を果たすという使命もある。 ・奥能登では障害者に対する偏見やレッテルがある風潮があったが、親の会などの努力で徐々に偏見も少なくなってきた。 ・障害の有無に関わらず、全家庭に対して理解啓発活動を進めていくことが大切であり、行政にも働きかけていくことも必要である。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・珠洲分校のセンター的役割や他機関との連携の在り方について明示することにより、相談事業の充実を図ることができるのではないか。そのためには、珠洲分校相談室の相談事業についての地域における役割を明確にする。		

4	① 少人数を生かしたきめ細やかな指導と全校のつながりを生かした活動の工夫	① 珠洲市及び能登町にある小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒を本校に招き、音楽や体育などの授業において合同学習を実施する。	特別支援学級の児童生徒との合同学習を A：3回以上実施した。 B：2回実施した。 C：1回実施した。 D：実施できなかった。	合同学習を7回実施した。 評価 A	・今年度からの初めての取り組みであり、当初は職員間に不安が多かったため目標回数を少なくしたが、特別支援学級からのニーズもあり、7回実施することができた。 ・合同学習の回数に関しては、参加校の教員へのアンケート結果によると、小学校1～5年は5～6回、小学校6年と中学校は7～8回が多かった。また、今年度は予算の関係で二学期に集中して実施したので、次年度は今年度以上の回数を一学期から三学期までバランスよく組み込んで実施したい。
	学校関係者評価委員会の評価 ・能登町の特別支援学級からの参加が少なかったようだが、能登町のバスを利用するなどとはできないだろうか。珠洲市の場合は担任が出張扱いで引率できているので、能登町にも何らかの働きかけが必要なのではないか。 ・特別支援学級との合同学習はとても良いことなので、今後も継続してもらいたい。				
	学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 ・次年度も引き続き合同学習を実施する。能登町の特別支援学級の参加が少ない理由を明確に把握し、その理由に応じて対象校やその保護者に参加を呼びかける取り組みを行う。また、必要に応じて能登町役場や教育委員会にも協力を依頼する。				
5	① 小規模校における校務分掌の工夫	① 各課毎に資料や簿冊の整理及び保管・管理の仕方の見直しならびに工夫を行い、誰が見てもわかりやすいように整備する。	資料や簿冊の整理及び保管・管理が A：十分できた。 B：おおむねできた。 C：あまりできなかった。 D：ほとんどできなかった。	A：0(0%) B：11(69%) C：4(25%) D：1(6%) 評価 B	・各課によってバラツキがあるが、どの課もAは一人もいない。しかし、Bは中間評価時の56.3%から69%に向上した。また、パソコンで作成した校務分掌に関する資料を職員サーバーにほとんど保存している職員の割合は56%になった。 ・次年度に向けて、今年度中にCとD評価の教員を中心に全職員に資料や簿冊の保管・管理をきちんと行うよう徹底していきたい。
	学校関係者評価委員会の評価 ・どの学校でも資料等の保管・管理は大切なことである。珠洲分校では校内LANの整備もできているようなので、管理担当者を明確にして情報データーなどの管理ができれば良いのではないか。				
	学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 ・各課の簿冊を置く場所を明確にし、定期的に点検する。また、情報データに関してはサーバーの各課のフォルダーにきちんと入れることを各課の主任に徹底し、定期的に点検する。				

6	キャリア教育の推進	① 全校児童生徒及び保護者へ進路や就労等の情報や作業学習等の様子も含めた「進路だより」を定期的に発行する。	「進路だより」を A：5回以上発行した。 B：4回発行した。 C：3回発行した。 D：2回以下しか発行できなかった。	「進路だより」を 6回発行した 評価 A	・6月に第1号を発行し、学期に2号ずつ発行した。卒業生の進路状況、インターンシップ促進連絡協議会の報告、小学部、中学部のキャリア教育、職業ガイダンス、地域の自立センターの紹介などについて掲載した。 ・今後、保護者が知りたい事を受けて、関係機関や学校で調べて保護者へ参考となる情報を提供したい。
		② 進路、就労等に関して、保護者のニーズに応じたテーマを設定し、関係機関の方を講師に招いて、「進路研修会」を実施する。	「進路研修会」に参加して A：十分満足できた。 B：おおむね満足できた。 C：あまり満足できなかった。 D：ほとんど満足できなかった。	A：36% B：55% C：9% D：0% 評価 B	・「卒業後の進路と生活を考える会」を保護者11名と福祉施設4カ所、輪島公共職業安定所出張所の5事業所が参加して開催した。各事業所から熱心な説明があり、保護者は施設を利用する上で参考になったと思われる。アンケート結果は、AとBを合わせて91%であった。 ・今後も同時期に事業所と懇談会を継続することが大切である。
学校関係者評価委員会の評価		・テレビ番組で、特別支援学校の生徒を職場実習に受け入れたことを機に障害者の雇用率が70%に達し、障害者の特性を生かしながら雇用しているという会社が伸びているという紹介があった。奥能登ではこれから第一次産業の将来に明るい部分があるので、社会みんなでアクションしていく必要がある。また、経営者の意識も変えていくような働きかけが必要である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・一次産業に期待する声もあるが、知的障害者にはマニュアル化したラインの製造業が適する場合が多い。ハローワークと連携しながら地域の会社の社長、市町長、JA組合長などの理解を求めていく。			